



JICA 中部研修(2019年度)における「あいくる」の紹介

「愛知県リサイクル資材評価制度」(総称「あいくる」)は、2002年4月から運用を開始し、公共事業において広く定着してきている中、2015年に「持続可能な開発目標(SDGs)」が世界共通の目標として国連持続可能な開発サミットで採択され、我国のリサイクルに関する知見や技術を活かすことが求められています。

この度、JICA中部主催の2019年度課題別研修「総合的な廃棄物管理(全般)」(2020年1月17日～2020年2月20日)の一単元に講師として参加する機会を得られたため、下記により「あいくる」を活用した資源の有効利用の取組みを紹介しました。

当日研修生からは、熱心な質問が寄せられ、リサイクルに対する関心の高さをうかがい知ることができました。今後も持続可能な社会の実現に向けた活動を続けていきたいと考えています。

記

1. 日時

2020年2月4日(火) 10:00から16:00

2. 参加者

6カ国6名:各国の環境部局行政官など
(レソト、リベリア、ニジェール、南アフリカ共和国、スーダン、タンザニア)

3. 講義内容

【午前の部(講義)】

10:00から11:00 愛知県自治センター第五会議室

- ・愛知県庁の組織について
- ・あいくるの概要
- ・あいくる材の見本説明

【午後の部(視察)】

13:00から14:30 名古屋市環境科学調査センター

- ・名古屋市における環境調査手法について

14:50から16:00 大有建設大江合材センター(あいくる材製造工場)

- ・コンクリート、アスファルト再生製品の製造技術について
- ・溶融処理石について

【講義】愛知県自治センター



【視察1】名古屋市環境科学調査センター



【視察2】大有建設大江合材センター (協力: 大有建設株式会社、中部リサイクル株式会社)

